

# 民主島根

2023年  
**3.12**  
第1423号

発行所 松江市袖師町3-6 TEL 0852-24-2444  
日本共産党島根県委員会 FAX 0852-24-6369

## 松江、出雲で共産党演説会 原発再稼働ノ一の願いは共産党に

### 山添<sup>参院議員</sup>、むこせ<sup>県知事</sup>、尾村・大国<sup>県議</sup>が訴え



松江会場(写真上)と出雲会場(写真下)で声援に応える山添氏(中央)

日本共産党の山添拓・参院議員は5日、松江市と出雲市の演説会で、県知事選で、むこせ慎一予定候補、県議選で尾村としなり、大国陽介両県議を押し上げて、原発を推進する国の悪政がいよいよの県政を転換し、いのちと暮らしを守る県政を実現しようと呼びました。

山添氏は、県議会・会派の中で唯一、島根原発2号機再稼働にストップをかける共産党県議団のかけがえのない役割を強調。「原発再稼働ノ一の願いは共産党に」と訴えました。

岸田政権の大軍拡は、自衛隊が米軍と一体となつて敵基地攻撃するものであり、報復攻撃を想定して出雲駐屯地をはじめ、全国の自衛隊機地を



### 2月県議会の論戦から ■原発のない島根こそ県民の願い ■大国県議の一般質問

日本共産党の大国陽介県議は2月21日、一般質問に、尾村利成県議は24日、一問一答質問に立ち、県知事や県執行部等をたどしました。(2面に続く)

強硬化しようとしていると批判しました。

むこせ氏は「丸山達也知事が同意した2号機の再稼働は撤回し、安心して住み続けられる島根をつくる」と決意表明。

尾村、大国の両氏は「オ

ール与党県政の中で、常に県民の立場で正面から対決して来た。引き続き県民の命綱として働かせてほしい」と訴えました。

大平喜信元衆院議員のメッセージが紹介されました。

福島第一原発事故から12年を迎えましたが、今なお「収束」とは程遠い状況にあります。

尾村県議は、昨年6月に島根原発2号機の再稼働同意を表明した丸山知事に対し、現行の避難計画は課題が山積し、再稼働への県民合意もないとして「原発ゼロを決断し、



### 尾村県議の一問一答 ■避難計画実効性ない 再エネ推進を

尾村氏は、①党県議団が実施した市民アンケートでは約6割が再稼働に反対、②コロナによる医療ひっ迫や大雪による交通障害などを通じ、避難計画に実効性がないことは明白だと強調。その上で、現行の避難計画について「入院患者は山陽3県や四国・関西地方までの転院が計画されてお

たことに対し、丸山達也知事が記者会見で運転延長は「致し方ない」と発言したことについて、「原発のない島根こそ県民の願いだ」と強調。国の方針転換は断固として拒絶するよう迫りました。

大国氏は2月13日の原子力規制委員会で、5人の委員のうち1人が反対を表明したにもかかわらず、新制度案が異例の多数決で決まったのは、岸田政権の法案提出のスケジュールに合わせることを優先したためだとし「結論ありきで国民への説明も抜きで、規制委の委員から強い異論が出されたにもかかわらず、無視して運転期間の上限を

また、国の原子力政策の転換については「将来的にエネルギー情勢等が改善し、家計、経済社会に余力が戻ってくれば、(国は)方針を元に戻すことを検討すべき」と答えました。

丸山知事は「複合災害への対応を含め、避難計画には実効性がある」と強弁。これに対し、尾村氏は「実効性を判断するのは、避難する当事者や避難に携わる医療や福祉、学校、保育関係者」と反論し、各施設への詳細なる調査、ヒアリングを要求しました。

丸山知事は、避難にあたって「ご負担をかけることは申し訳ない。円滑に実施できるように理解を求めたい」と述べました。

尾村氏は「実効性があるとの認識は、県が安全神話を振りまき、誤ったメッセージを送ることに

なる。2号機の再稼働同意は撤回すべきだ」と主張しました。

選ばれし二人は日本人の男女。これまでの飛行士とは異なる経歴や、24年ぶりに女性が選考されたこと、最高齢・最年少という点でも話題だ。これは今回の選考において「多様性」という観点があったことを証しする▼なぜ今、「多様性」が選考のキーワードなのか。背景には宇宙開発に様々な人材を求める世界の潮流があるという。すなわち、様々な人材による多様な視点や視座を有してこそ、真の宇宙開発が叶うということだろう▼当たり前のような気もするが、これは宇宙という特殊な空間を対象にする場合に限ったことではない。自身の内に複数の視座をもった時や、視点を変えてものを見る習慣が身につくと、生きづらさも軽減され、問題打開への示唆も得られるとはよく言われることだ▼では、ここ数年、時の政権が好んで用いる「異次元の」とは、果たして必要な視座なのか。奇をてらつたレトリックではないのか。本当に必要な視座は、眼前の問題と対峙し、議論を尽くして辿り着くものであつてほしい▼月探査計画により、日本人初の月面着陸も視野に入る今回の候補者米田あゆさんは、「月から見る地球の姿」に言及した。その言葉に誰もが宇宙空間に浮かぶ地球を想い、同時に、たった一つの地球の上で軍拡抑止力だと血道を上げる愚かさを感じ、嘆いたであろう。だがそんな「争う」ための視座を増やすことにしかならない所業を嘆息してばかりではいられない。今こそ真の平和を問う視座を手にしち上がりたい。(江)

### 鼓動

去る2月28日、宇宙航空研究開発機構(JAXA)の新たな宇宙飛行士候補が14年ぶりに決まった。

選ばれし二人は日本人の男女。これまでの飛行士とは異なる経歴や、24年ぶりに女性が選考されたこと、最高齢・最年少という点でも話題だ。これは今回の選考において「多様性」という観点があったことを証しする▼なぜ今、「多様性」が選考のキーワードなのか。背景には宇宙開発に様々な人材を求める世界の潮流があるという。すなわち、様々な人材による多様な視点や視座を有してこそ、真の宇宙開発が叶うということだろう▼当たり前のような気もするが、これは宇宙という特殊な空間を対象にする場合に限ったことではない。自身の内に複数の視座をもった時や、視点を変えてものを見る習慣が身につくと、生きづらさも軽減され、問題打開への示唆も得られるとはよく言われることだ▼では、ここ数年、時の政権が好んで用いる「異次元の」とは、果たして必要な視座なのか。奇をてらつたレトリックではないのか。本当に必要な視座は、眼前の問題と対峙し、議論を尽くして辿り着くものであつてほしい▼月探査計画により、日本人初の月面着陸も視野に入る今回の候補者米田あゆさんは、「月から見る地球の姿」に言及した。その言葉に誰もが宇宙空間に浮かぶ地球を想い、同時に、たった一つの地球の上で軍拡抑止力だと血道を上げる愚かさを感じ、嘆いたであろう。だがそんな「争う」ための視座を増やすことにしかならない所業を嘆息してばかりではいられない。今こそ真の平和を問う視座を手にしち上がりたい。(江)